

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央大学 井村進哉ゼミ 井村進哉ゼミパート

10

部門番号

部門名

金融論

テーマ

日本企業の資金調達

サブテーマ

フィンテックを活用した新しい資金調達

趣意文

企業の資金調達の方法としては2種類ある。株式や債券を発行して資金調達をする「直接金融」と銀行などの金融機関を通して資金調達をする「間接金融」である。日本企業の資金調達は間接金融が中心である。現在、「マイナス金利政策」に代表される大胆な金融緩和が行われ融資拡大を促し、企業の資金調達環境は改善に向かっている。しかし、いまだに資金調達に課題を抱える企業は多く存在している。

資金調達に課題を抱える企業は運用資金や設備投資に資金を回せない。よって、成長することができない。このような企業の多くは日本企業の約99%を占める中小企業である。一方で、法人企業全体としては手元流動性を多く抱え込んでおり投資や給与、配当に資金を分配していないことが課題として挙げられる。

現在、日本企業の資金調達方法は多様化してきている。その中でも私たちはフィンテックを活用した資金調達をするべきだと考える。例えば、インターネットを利用したクラウドファンディングを用いて資金調達をする金融サービスがある。フィンテックを活用した資金調達によって、既存の方法で資金調達ができず、運用資金や設備投資に資金を回すことができなかった企業が資金調達を円滑に進め、成長することによって、近年のグローバル経済においてより存在感を示していけるのではないかと考える。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央 大学 佐藤拓也 ゼミ 金融班 パート

10

部門番号 部門名 金融論

テーマ キャッシュレス化について

サブテーマ 現金との違い

趣意文

現在、国際収支表上において、多くの割合を占めているのは、金融収支の分野である。つまり、「資本取引」が今の世界の主流になっている。また、近年 IoT や AI 化によるコンピューターの自動化による普及により、ますます便利なモノやサービスが増えている。その中で我々は、「現金の流動性」について疑問を持った。

前述したように、お金の決済の方法としても、Fintech(ビットコインや suica)などの便利なシステムが存在している上に、資本取引が主流の世の中であるにもかかわらず、現金が現在でも、1番の信頼性を誇ることに對して、非合理性を感じる。

以上から、現金を使わない世の中である「キャッシュレス化」が成し遂げられることで、取引の流動性は上がるのではないかという問題意識を持ち、このテーマを設定するに至った。